

(9) 四国



四国地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鋳工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きに一服感がみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

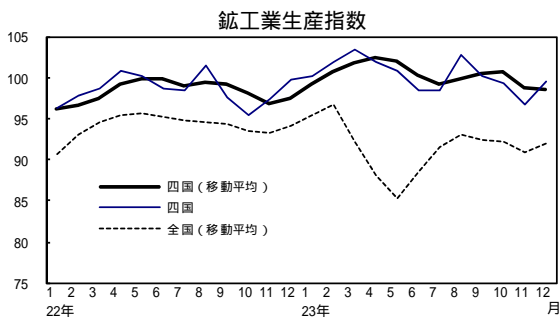
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 11 月)	今回 (平成 24 年 2 月)	
住宅建設	増加	減少	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	持ち直しの動きに一服感	

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は弱含んでいる。

化学は、カプロラクタムを生産する一部の工場で定期修理があったことなどから、減少している。電気機械は、蓄電池の国内等での需要が落ち込んだことなどから、減少している。食料品は、清涼飲料水の一部工場で定期修理からの生産再開があったことなどから、増加している。パルプ・紙は、塗工紙を生産する一部の工場で定期修理からの生産再開があったことなどから、増加している。一般機械は、基礎工事機械、半導体製造装置が前期に生産を行った反動から、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

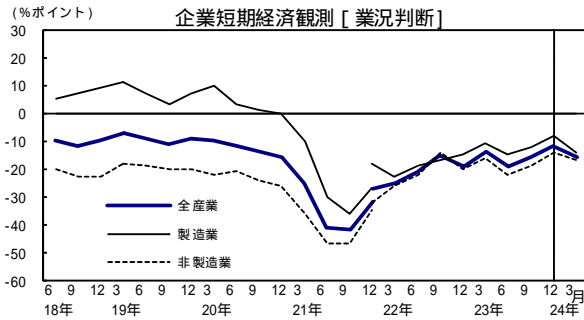
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
化学	17.1	3.7	4.8	3.5	18.6
電気機械	15.4	2.1	1.2	2.9	14.2
食料品	13.6	4.8	0.6	0.1	0.7
パルプ・紙	11.8	2.3	2.3	0.4	6.9
一般機械	8.9	15.5	8.3	2.9	27.6
鋳工業	100.0	0.2	1.9	0.5	5.6

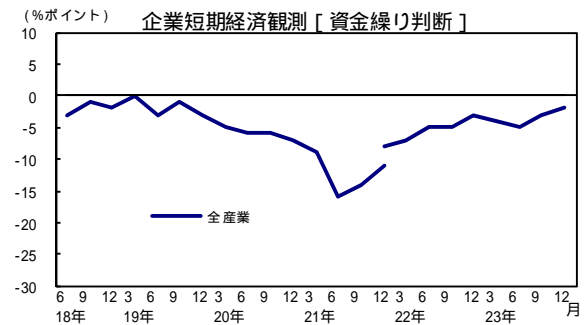
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

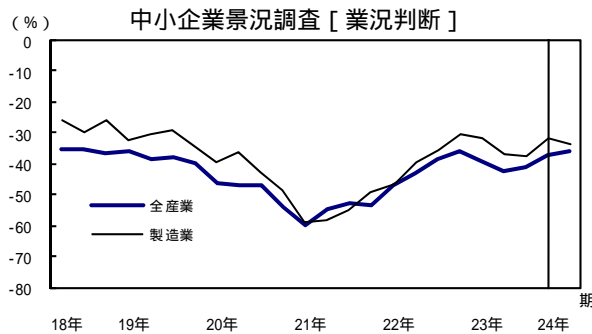
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年3月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

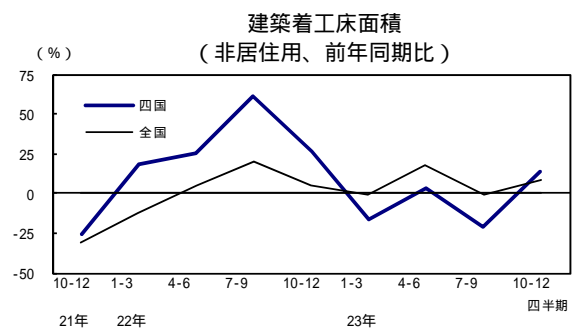
「販売額はやや上向いてきたが、単価の下落が激しい(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	3.2	22.0(1.4)
製造業	32.4	23.4(2.3)
非製造業	23.1	20.0(7.6)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

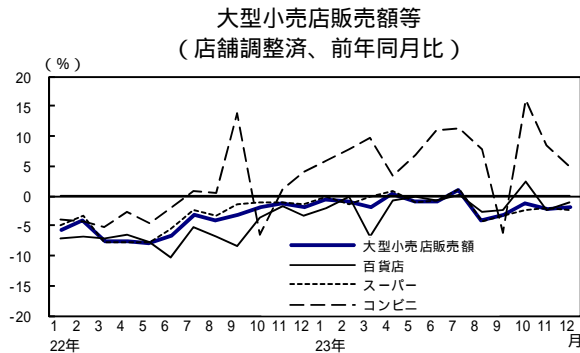
大型小売店販売額は、前年同期比で1.8%減、前期比で0.5%増となった。

百貨店は、10月は、飲食料品の催事が好調だったことから、前年を上回った。11月は、気温が中旬まで高めに推移したことにより、冬物衣料が低調だったことなどから、前年を下回った。12月は、飲食料品の歳暮の減少などから、前年を下回った。

スーパーは、前年の家電エコポイント制度変更に伴う駆け込み需要の反動などから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「1月の売上は、セールにもかかわらず前年を若干下回っている。前年と比べて重衣料の動きが鈍く、客単価が下がっている(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	1.2	0.4	2.0	1.8
百貨店(*1)	3.2	0.6	1.5	0.5
スーパー(*1)	0.5	0.4	2.2	2.3
大型小売店(*2)	0.4	1.1	0.7	0.5
(季節調整値)(*3)	(0.4)	(0.5)	(0.7)	(0.5)
乗用車(*4)	27.8	38.9	24.7	20.5
(季節調整値)(*4)	(0.3)	(14.1)	(30.9)	(6.8)

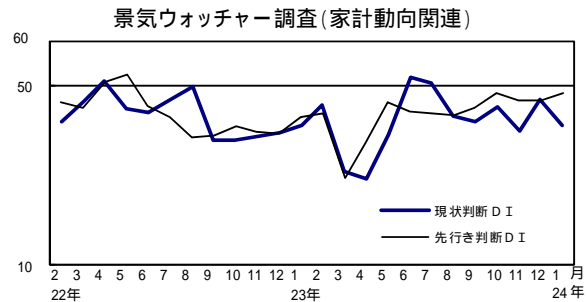
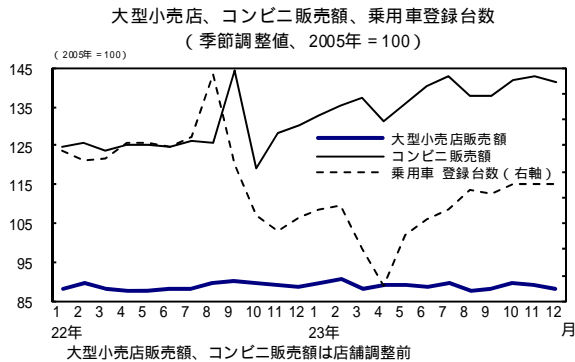
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

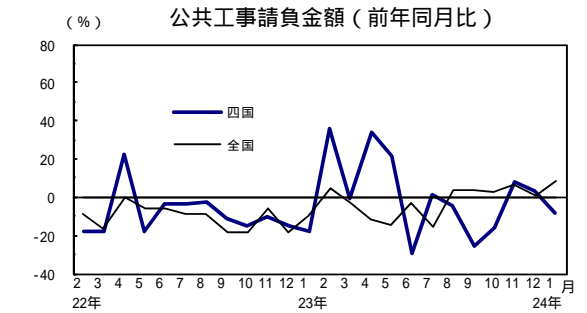
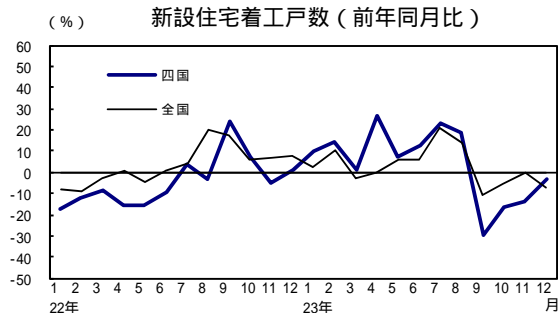
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

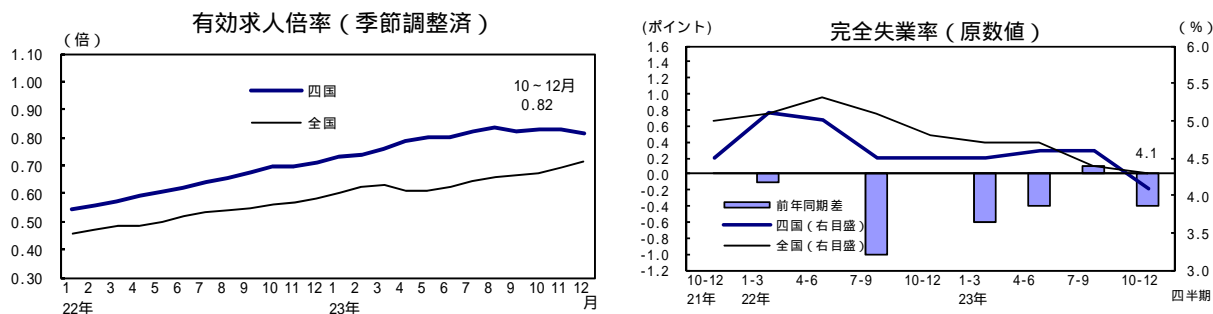


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きに一服感がみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

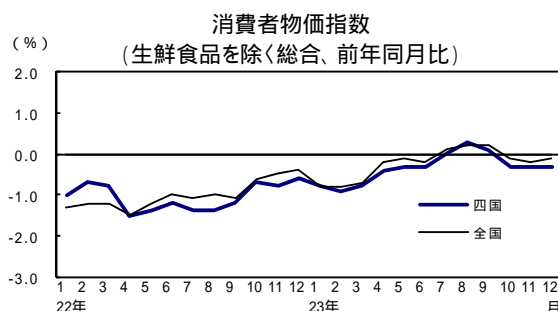
「求人状況、特に新卒採用において、前年比で改善傾向にある。ただ、新卒学生の動き出しが当初の予想よりも鈍い(求人情報誌)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「求人数などは増えているが、求職者のミスマッチも多く、現状維持である(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	24年1月
倒産件数	72	55	80	58	21
(前年比)	1.4	41.5	1.2	10.8	16.7
負債総額	125	158	250	120	58
(前年比)	42.8	17.5	13.5	19.9	81.8



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・年未年始は好調に推移したが、その後は反動から、衣料品など生活必需品以外の苦戦が続く(スーパー)

<先行き>

- ・4月に新しい商業施設がオープンする予定で、期待が大きく膨らんでいる(商店街)

